

# 総合的な学習の時間

丸山 賢悟  
小原 広士

## 地域の実態に応じた探究課題の解決を通して、 自分がすべきことを考えるチャレンジ学習

### I 総合的な学習の時間研究の方向性

#### 1 主題設定の理由

総合的な学習の時間（以下、総合）は、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標にしていることから、将来の変化を予測することが困難なこれからの時代において、ますます重要な役割を果たすものです。

本校のこれまでの研究では、児童が自己の生き方を問い続ける探究課題や、単元構成の在り方等に取り組んできました。その成果として、児童が新たな課題を生み出しながら、探究的に学習を進められるようになったことが挙げられます。

一方、全国学力・学習状況調査（令和4年度）の「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の項目では、肯定的な回答をした児童が6割程度でした。上記の項目は、総合で求められている「自己の生き方を考えていくための資質・能力」の一つと関連があります。この結果から、児童が、実社会・実生活において、自分は何をすべきか、どのようにすべきかを考えることについては課題があると考えます。

総合では、身近な社会や人々、自然に直接関わる学習活動の中で、課題を解決し、自己の生き方を考えていくことが必要です。しかし、本校の教育課程に位置付く探究課題には、児童や学校、地域の実態等に十分に依拠していないものがあります。また、単元構成においては、地域との関わりを更に深められるものもあります。

そこで、研究主題を「地域の実態に応じた探究課題の解決を通して、自分がすべきことを考えるチャレンジ学習」と設定しました。本研究では「地域の実態に応じた探究課題」を「本校の児童、本校、本校の地域の実態に即した『目標を実現するにふさわしい探究課題』」と定めます。地域の実態に応じた探究課題や単元を構想し、探究的な学習の過程を一層充実することで、児童が地域や社会をよくするために何をすべきかを考える学習を目指しました。

#### 2 目指す「新たな価値を創り出す」児童の姿

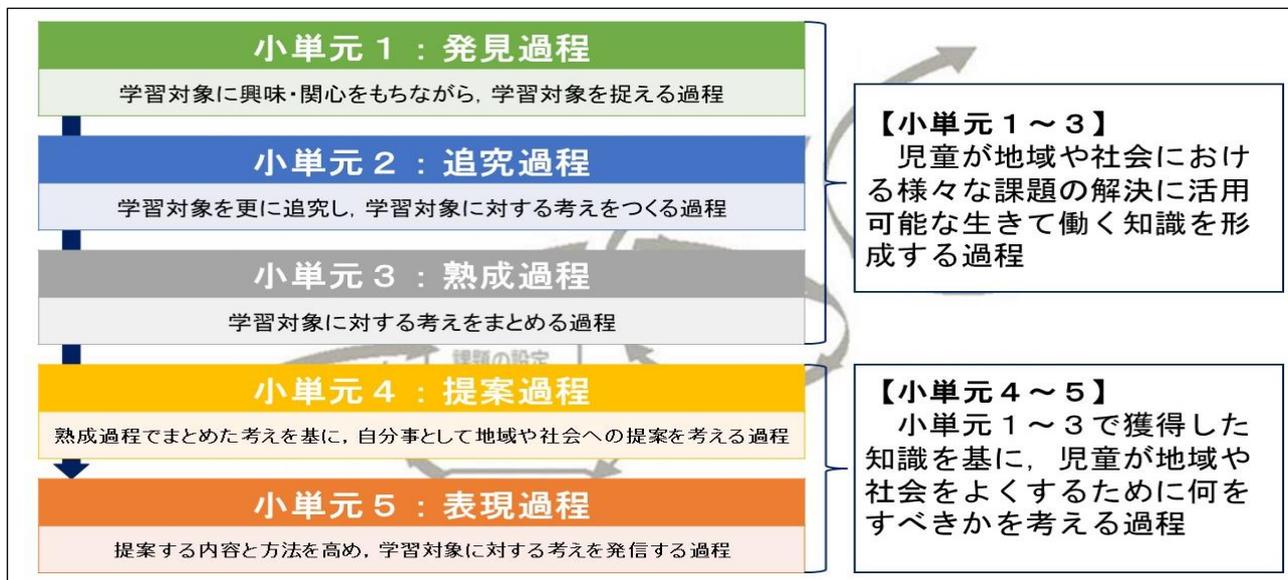
総合における「子供が創り出す『価値』」を以下のようにおさえました。

①自ら問いをもって、探究することの価値	実社会・実生活の「人・もの・こと」と自分とのつながりを見いだす。
②人と関わり、協働して探究することの価値	実社会・実生活の「人・もの・こと」や友達と互恵的に学び合うことの必要性を実感する。
③探究することで得た内容値や方法値の価値	実社会・実生活で、新たな知識を獲得したり、課題を解決するための方法を自分で考え出そうとしたりする。

## II 研究内容の具体

### 1 「探究型の学び」のイメージ

総合は、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく学習です。「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編」（以下、解説）では、この学習を探究的な学習とし、一連の学習過程を示しています。本研究では、解説に示された学習過程をベースに、「探究型の学び」を次のように整理しました。



児童が地域や社会をよくするために何をすべきか考えられるようにするためには、上記の「探究型の学び」を通して、地域の実態に応じた探究課題を解決することが大切です。地域の実態に応じた探究課題を設定するには学習材が必要です。学習材は、児童にとって身近な「人・もの・こと」でなければなりません。本校は附属学校であることから、児童が住んでいる地域は様々です。そこで、「探究型の学び」を進める学習材を以下のように設定しました。また、学習材は、その特徴から、発達段階に応じた系統的な学びが実現できるように配列にしました。

学年	目指す子供の姿	学習材（旭川市）	学習材の特徴	探究課題（例）
3年	旭川市のまちのよさに気付き、相手や目的に沿って表現できる子供	旭川市の自慢できる場所（主な観光地：動物園，神居古潭，旭橋等）	主に社会科「旭川市の様子」と関連を図った学習を通して、目指す子供の姿の実現が可能	【自然・環境】 【町づくり・地域経済】
4年		旭川市の川（石狩川，忠別川，牛朱別川，永山新川等）	主に社会科「水はどこから」「自然災害からくらしを守る」「きょう土の伝統・文化と先人たち」と関連を図った学習を通して、目指す子供の姿の実現が可能	【自然・環境】 【町づくり・地域経済】 【防災・安全】
5年	旭川市の課題解決や活性化に向けての活動ができる子供	常磐公園（主に歴史，設置されている彫刻，常磐公園内の施設）	100年以上の歴史がある公園であり，文化芸術の拠点にもなっていることから，目指す子供の姿の実現が可能	【自然・環境】 【町づくり・地域経済】
6年		旭川市の自慢できる場所（これまでの学習や経験から，児童が旭川市の自慢だと捉える場所）	学校行事「修学旅行」の自主研修と関連を図りながら，目指す子供の姿の実現が可能	【自然・環境】 【町づくり・地域経済】

なお、地域の実態に応じた探究課題を設定する際は、児童の興味・関心、学習材の特性を鑑み、解説に示された三つの課題（①横断的・総合的な課題，②地域や学校の特色に応じた課題，③児童の興味・関心に基づく課題）を意識し、具体化して示します。その際、本研究で作成した以下の例を参考にします。

《地域の実態に応じた探究課題の例》

【自然・環境】（①横断的・総合的な課題）

学年	地域の実態に応じた探究課題	地域の実態に応じた探究課題の解決を通して形成を目指す生きて働く知識
		知識及び技能（資質・能力）
中学年	旭川市の自然環境の魅力や環境問題、環境保全に取り組んでいる人々の願いや思い、その営み	<ul style="list-style-type: none"> <li>旭川市には自然、動植物の成長、資源など様々な魅力や特徴があり、それに気付くことは生活改善につながる事が分かる。</li> <li>環境保全や環境改善に取り組んでいる人々は、思いや願いをもって実現しようとして行動している事が分かる。</li> <li>環境や自然と人間との関わりを良好にするには、環境のために自分にできることがあることを知り、日頃から環境を考えた生活が必要である事が分かる。</li> </ul>
高学年	旭川市の自然環境の魅力や価値、環境問題、環境保全に取り組んでいる人々の考え方や意志、その営みの意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>旭川市の自然において、生物はその周辺の環境と関わり合って生きていて、自然環境は様々な要因で常に変化する可能性があり、一定ではない事が分かる。</li> <li>環境保全や環境改善のために取り組んでいる人々は、組織を作ったり地域との連携を図ったりするなど、願いをもって組織的に取り組んでいる事が分かる。</li> <li>環境保全、改善、創造に取り組むことは、環境に対する人間の責任と役割があり、自分自身が行動することがその実現に直結する事が分かる。</li> </ul>

【町づくり・地域経済】（②地域や学校の特色に応じた課題）

学年	地域の実態に応じた探究課題	地域の実態に応じた探究課題の解決を通して形成を目指す生きて働く知識
		知識及び技能（資質・能力）
中学年	旭川市の「人」「もの」「こと」の特徴や魅力と、まちづくりに関わる人々の思いや願い。そのような思いや願いを実現しようとする営み。	<ul style="list-style-type: none"> <li>旭川市には、魅力的な「人」「もの」「こと」があることに気付くとともに、つながり合って魅力を形成していることに気付く。</li> <li>地域で働く人一人一人に、思いがあったり、それを実現するための工夫や技があったりすることに気付く。</li> <li>地域の人々とふれあったり、関わり合ったりしながら地域の一員として行動できることと、それができる喜びに気付く。</li> </ul>
高学年	旭川市の魅力やその価値と、地域の発展に関わる人々の考え方や意志、生き方。地域社会の維持発展に向けた創造的な営みとその意義。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会の発展には、背景に様々な要素の関連があることや、地域活性化にかかわる取組は人々が生み出すものであり、そこにかかわることができることに気付く。</li> <li>地域の活性化に向けて仕組みや制度が創られていることに気付く。</li> <li>地域の方々とのかかわりは、生み出せたり、創れたりできるものであることに気付く。</li> </ul>

【防災・安全】（②地域や学校の特色に応じた課題）

学年	地域の実態に応じた探究課題	地域の実態に応じた探究課題の解決を通して形成を目指す生きて働く知識
		知識及び技能（資質・能力）
中学年	旭川市の防災の課題や、防災に携わる人々の思いや願いと、その取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>旭川市の地形や交通、高齢化などの様々な要因が、防災上の課題につながっている事が分かる。</li> <li>旭川市の消防団や町内会、市役所などの人々の、地域を守りたいという思いや願い、活動のよさが分かる。</li> <li>安全な地域にするために、地域の人たちが協力しながら防災の活動に取り組んでいる事が分かる。</li> </ul>
高学年	旭川市の防災の課題と、防災に携わる人々や組織の意志や考え方、地域防災力の向上の取組の社会的意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>地形や交通、高齢化、地域コミュニティのつながりの希薄化など、旭川市には地域防災における喫緊の課題が混在している事が分かる。</li> <li>旭川市の消防団や町内会、市役所などの人々の考え方や生き方、取組の社会的価値がわかる。</li> <li>安全な地域にするために、地域の人々が主体的に連携しながら、自助・共助が生まれる地域を構築している事が分かる。</li> </ul>

## 2 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン

総合は、児童一人一人の興味・関心に合わせて学習内容や学習方法を調整しやすい領域です。その特徴を生かすことで、児童がこれまでの学習履歴や身に付けている資質・能力、現在の興味・関心、将来の目標などを踏まえ、個々に学習計画を立てて取り組むことができると考えました。そこで、「個別最適な学び」を以下のように押さえ、探究的な学びを通して、自分の学びの意味や価値を考える授業づくりについて研究を進めました。

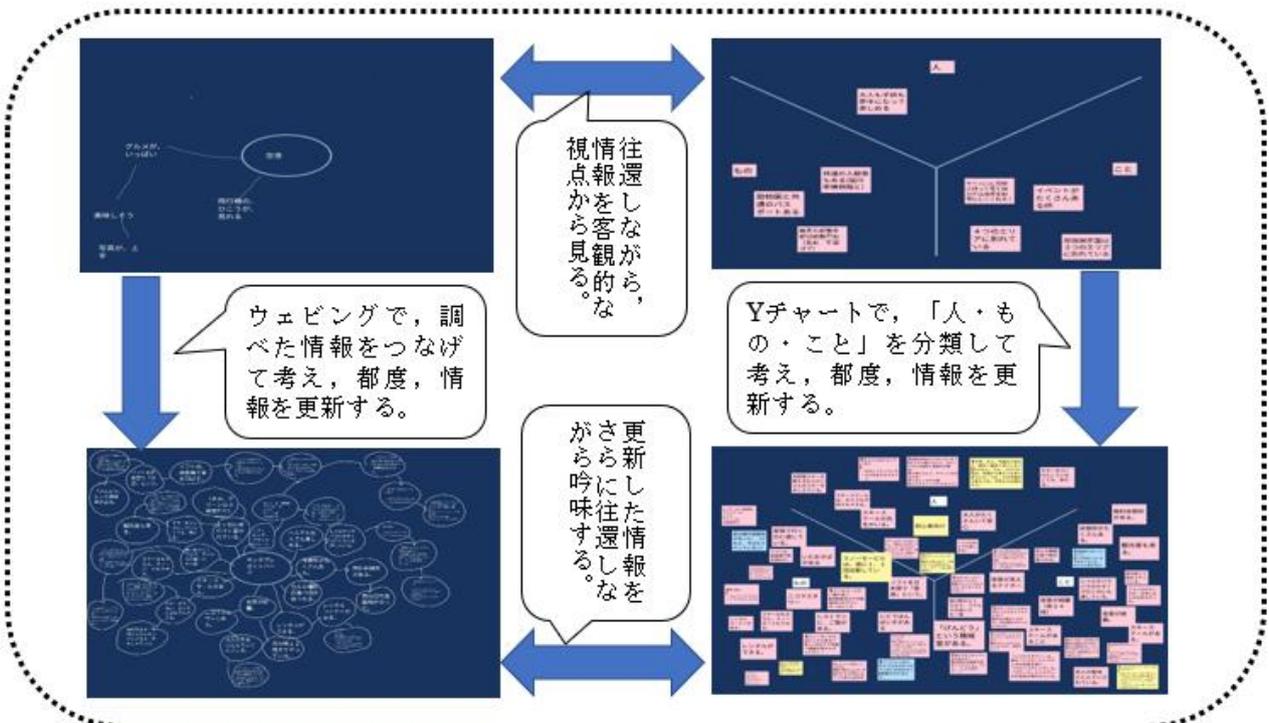
### ◆総合における「個別最適な学び」

自ら設定した探究課題の主体的解決を通して、実社会・実生活の「人・もの・こと」と自分とのつながりを見いだす学び

### ○ICTの活用（情報活用能力）

#### ・思考ツールの活用

個人で情報を収集したり、整理・分析したりする場面で、ロイロノート・スクール（以下、ロイロノート）の思考ツールを活用します。その際、複数の思考ツールを比べて客観的な視点で見たり、適宜、情報を吟味・更新したりして往還することにより、実社会・実生活の「人・もの・こと」と自分とのつながりをとらえます。



#### ・アンケート機能の活用

個人で探究課題を設定したり、情報を収集したりする場面で、アンケート機能を活用します。

### ○学びの意味や価値の明確化

実社会・実生活の「人・もの・こと」と自分とのつながりを意識しながら探究的な学びを続けるために、以下3点について、自分の学びの現状を確認し、ときには立ち返りながら活動します。

- ・目的（なぜその課題を追究してきたのか）
- ・内容（これを追究して何を明らかにしようとしているのか）
- ・方法（どのような方法で追究してすべきなのか）

児童が、他者との関わりを意識したり、新たな視点に気付いたりできるよう、「協働的な学び」を以下のように押さえ、3つの手立てを講じました。

◆総合における「協働的な学び」

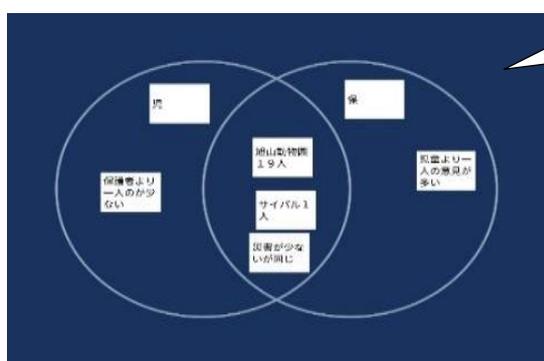
他者に触れ、新たな視点に気付くことを通して、実社会・実生活の「人・もの・こと」と自分とのつながりが互恵的な相互作用になっていると実感できる学び

○言語能力の活用

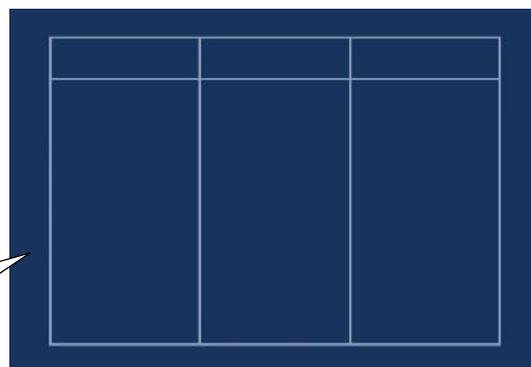
・考えるための技法（以下、技法）の活用

「対象を○○するために、△△という技法を使う」のように、単独ではなく必要に応じて2種類の技法を組み合わせます。さらに、考える手立てとして、思考ツールも合わせて用いることもあります。（対象：具体物、事象、知識、情報、考え）

[実践例：3年「旭川市の自慢発見隊」]



「共通点を明らかにする」ために、「ベン図」を使って「比較する」



「新たな問題点を見付ける」ために、「PMI」を使って、「分類する」

○児童の気付きを生むグルーピング

「個→グループ（ペア）学習→全体交流」を学習形態の基本とした上で、グループ（ペア）学習の際に、同意見（同対象）、異意見（異対象）でのグルーピングを行います。

[例] 同意見（同対象）：同じ対象でも違った見方ができることに気付く。

異意見（異対象）：違う対象と比べることにより、対象を違った角度から見たり、これまで気付かなかった特徴に気付いたりする。

○学びをつなげる

学びをつなげる言葉がけや場の設定をします。

- ・他教科での学びとつなげる。

[例] 「国語でお手紙や封筒の書き方について学んだことを生かして、施設で働く人にお礼のお手紙を書こう。」

- ・総合での学び（事実的知識、課題解決方法）とつなげる

[例] 「自分が調べた施設と他グループが調べた施設の自慢ポイントを比べて、共通点や差異点について考えよう。」

- ・生活経験（生活・自然）とつなげる。

[例] 「家族と動物園に行ったときに、職員の人が案内板を作っているのを見たことがある。」

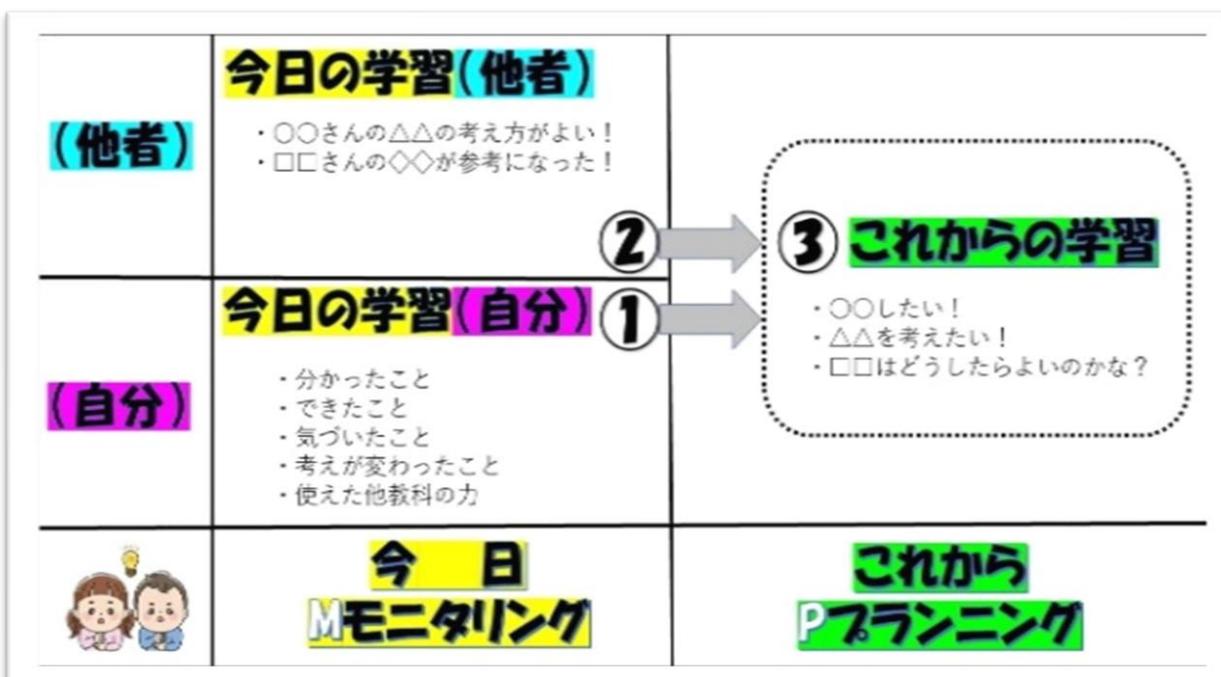
### 3 新たな視点や価値に気付くための振り返り

自分のすべきことを考えるときには、学習の成果から達成感や自信をもったり、客観的な視点から自分のよさや可能性に気付いたりして、自分の人生や将来について考えるなど、学んだことを自分の生き方につなげて考えることが大切だと考えました。

そこで、「これまでの学習」を振り返るとともに、「今後の学習への展望」を振り返りの視点とした自己評価を行います。また、他者評価を行い、客観的な視点から、自分の学びを省察しました。

#### ○3 視点からの自己評価と他者評価

- ・ 探究的な活動の節目で、随時、振り返りを行います。  
[例] 課題設定後、情報の収集後、整理・分析後など
- ・ 振り返る視点を明確にし、文章で記述する。
- ・ 「①今日の学習（自分）」と「②今日の学習（他者）」については、記入できそうなところだけ記入する。
- ・ 「③これからの学習」については、必ず記入する（児童の思いや願いを基に、次の学習の方向性を考えるため）。
- ・ ロイロノートの提出箱に提出する。
- ・ 場合によっては、提出箱の回答を共有する。



【振り返りの視点】

#### ○「振り返り」の共有

新たな視点や価値への気付きにつなげるために、相互の振り返りを共有した感想・気付き等をさらに共有します。共有は、本時の終末場面、もしくは次時の導入場面で、児童の振り返りを価値付けながら行います。

# Ⅲ 研究実践

## 3年生実践 『旭川市の自慢発見隊』

実践のテーマ：他者に触れ、新たな視点に気付くことを通して、  
施設で働く人の思いや願いについて考える学習

### 1 研究授業のねらい

本単元のねらいは、旭川市の魅力を調査したり、発信したりすることを通して、旭川市の特徴や旭川市を支える人たちの思いや願いを理解し、旭川市のよさが伝わる発信の在り方について考えるとともに、日常を見つめ直し、自己の生き方を考えようとする事です。

旭川市は、ここ数年、人口減少と少子高齢化が急速に進んでおり、創生総合戦略が打ち出され、市の魅力を積極的に発信しています。そこで、旭川市の自慢について調査・発信する学習を通して、旭川市の特徴についての理解を深めるとともに、市民の努力や愛着によって支えられているまちであることを知る必要があると考えました。また、日常を見つめ直し、自己の生き方を考えるとともに、旭川市で働く人の思いや願いについて考え、旭川市で生活する一員として主体的に地域に関わろうとする心情や態度（将来展望・社会参画）を育むことが大切だと考えました。

### 2 単元の指導計画（75時間扱い）

次	段階	時間	学習活動	評価規準・評価方法 規準者の履行り（※含む）
第1次	課題設定	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>□オリエンテーションの時間では、どのような学習をするのかを知る。</li> <li>□総合的な学習の時間で「頑張ってきたこと」や「身に付けた力」を話し合う。</li> <li>□事前アンケートから、親友や保護者が、旭川市についてどのようか考えているかを知る。</li> <li>□自分たちが考えている自慢以外にも、旭川市には魅力があるかもしれないという気持ちをもつこと。</li> <li>□旭川市についてもっと調べたいという気持ちをもつこと。</li> <li>□「自分たちが調べたいのかを交換する」。</li> <li>□旭川市の様子との関連。</li> <li>□児童や保護者による事前アンケートの結果から旭川市の魅力を発見する意欲を高める。</li> <li>□発見活動のめあてを設定し、1次の学習計画を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「主体的に学習に取り組む態度」</li> <li>②「自己理解・他者理解」 (発言内容、行動観察)</li> </ul>
		②	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「発見活動のめあて」</li> <li>□旭川市の自慢について、いろいろな人の意見を聞いてみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「思考・判断・表現」</li> <li>②「課題の設定」(発言内容)</li> </ul>
第2次	情報の収集・整理・分析	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>□旭川市の自慢について、街頭インタビューの計画を立てる。</li> <li>□街頭インタビューを実施する。</li> <li>□街頭インタビューで、運行する市民、観光客、お祭りなど、様々な視点から市況について、お祭り・社会科「旭川市の様子」(歴史、交通)における自慢を中心に調査する。</li> <li>□調査した情報をグループ毎に整理し、結果を全体で発表する。</li> <li>□「調査した自慢を振り返り、感想や新たな疑問を交換する」。</li> <li>□1次の学習を振り返り、感想や新たな疑問を交換する。</li> <li>□概念地図を用いて2次で得た知識を整理する。</li> <li>□2次で、旭川市の自慢の中から下記のものについて、自分たちが調べたい自慢を決定し、完成させる。</li> <li>□2次では、旭川市の自慢の中から下記のものについて、自分たちが調べたい自慢を決定し、完成させる。</li> <li>□旭川空港、旭山動物園、サンタプレゼントパーク、中央図書館、道の駅、各学館サイバルの6カ所を調査しよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③「知識・技能」</li> <li>④「探究的な学習のよき」</li> <li>⑤「思考・判断・表現」</li> <li>⑥「情報の収集」</li> <li>⑦「整理・分析」</li> <li>⑧「まとめ・表現」 (思考ツール、ノート)</li> <li>⑨「主体的に学習に取り組む態度」</li> <li>⑩「自己理解・他者理解」 (発言内容、行動観察)</li> </ul>
		④	<ul style="list-style-type: none"> <li>□アンケート結果から、旭川市には、自慢できることがたくさんあることが分かった。その中から、旭川空港、旭山動物園、サンタプレゼントパーク、中央図書館、道の駅、各学館サイバルの6カ所を調査しよう。</li> </ul>	

第3次	課題設定	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「発見活動のめあて」を設定し、学習計画を立てる。</li> <li>□旭川市の自慢を発信する方法を決めよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「思考・判断・表現」</li> <li>②「課題の設定」(発言内容)</li> </ul>
		②	<ul style="list-style-type: none"> <li>□旭川市コンベンション協会で行っている情報発信の仕組みを知る。</li> <li>□国語「手紙を書いてつたえよう」との関連。</li> <li>□G T (総合職員)から学んだことを整理し、自慢を発信する方法を決める。</li> <li>□自分たちが発信する方法としてよいのは、動画やポスターなどである。</li> <li>□施設の人に相談して、発信方法を決定する。</li> <li>□動画を作るためには、写真やシナリオが必要で、4次の学習を振り返り、感想や新たな疑問を交換する。</li> <li>□4次の学習を振り返り、感想や新たな疑問を交換する。</li> <li>□ウエビング等を用いて4次で得た知識を整理する。</li> <li>□教材、シナリオづくり、動画撮影を通して、旭川市の「自慢」についての理解が深まった。また、自慢とそれの発信を知ることを通して、自慢が関係性が見えてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③「知識・技能」</li> <li>④「探究的な学習のよき」</li> <li>⑤「思考・判断・表現」</li> <li>⑥「情報の収集」</li> <li>⑦「整理・分析」</li> <li>⑧「まとめ・表現」 (思考ツール、ノート)</li> <li>⑨「主体的に学習に取り組む態度」</li> <li>⑩「自己理解・他者理解」 (発言内容、行動観察)</li> </ul>
第4次	課題設定	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「表現活動のめあて」</li> <li>□動画を完成させ、イベント(動画披露会等)を実施しよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「思考・判断・表現」</li> <li>②「課題の設定」(発言内容)</li> </ul>
		②	<ul style="list-style-type: none"> <li>□完成したものを、学級内で交換する。</li> <li>□発信の対象を学校関係者に広げる。</li> <li>□街頭旭川小学校の児童、教職員、保護者</li> <li>□国語「手紙を書いてつたえよう」との関連</li> <li>□招待状、礼状作成)</li> <li>□「自分の自慢について発信しよう」との関連</li> <li>□関わってきた人々の反応やアンケート(アンケート結果)を分析し、自分たちの活動の意義や価値を考える。</li> <li>□概念地図を用いて4次で得た知識を整理する。</li> <li>□旭川市の特徴には関わりがあり、それらが関連している現在の旭川市が形成されていること。旭川市の「自慢」は、歴史・職人たちの努力や愛着によって支えられている。これらから旭川市として、旭川市の「自慢」を見つけて発信し続けたい。</li> <li>□動画、制作スチール等を発信する。</li> <li>□「自慢」を協定旭山動物園のH Pで公開、旭川市の施設(空港等)で上映等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③「知識・技能」</li> <li>④「探究的な学習のよき」</li> <li>⑤「思考・判断・表現」</li> <li>⑥「情報の収集」</li> <li>⑦「整理・分析」</li> <li>⑧「まとめ・表現」 (思考ツール、ノート)</li> <li>⑨「主体的に学習に取り組む態度」</li> <li>⑩「自己理解・他者理解」 (発言内容、行動観察)</li> </ul>

次	段階	時間	学習活動	評価規準・評価方法
第1次	課題設定	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「発見活動のめあて」を設定し、学習計画を立てる。</li> <li>□「発見活動のめあて」</li> <li>□旭川市の自慢を調べる方法を決めて、詳しく調べよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「思考・判断・表現」</li> <li>②「課題の設定」(発言内容)</li> </ul>
		②	<ul style="list-style-type: none"> <li>□インターネットや本、パンフレットで調べる。</li> <li>□得た情報を整理してまとめる。</li> <li>□調査結果を同グループ内で共有する。</li> <li>□調査結果を他グループと共有する。</li> <li>□ウエビングとYチャートで、2次で得た知識を整理する。</li> <li>□1次～2次にかけての自己の変容を振り返る。</li> <li>◆自慢について詳しく知り、分りやすくまとめることができた。もっと詳しく調べたい。</li> <li>◆施設見学へ行き、職員の話に直接聞いた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③「知識・技能」</li> <li>④「探究的な学習のよき」</li> <li>⑤「思考・判断・表現」</li> <li>⑥「情報の収集」</li> <li>⑦「整理・分析」</li> <li>⑧「まとめ・表現」 (思考ツール、ノート)</li> <li>⑨「主体的に学習に取り組む態度」</li> <li>⑩「自己理解・他者理解」 (発言内容、行動観察)</li> </ul>
第2次	情報の収集・整理・分析	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「発見活動のめあて」を設定し、学習計画を立てる。</li> <li>□「発見活動のめあて」</li> <li>□自慢についてもっと調べるために、施設見学へ行き、職員の話に直接聞いてみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「思考・判断・表現」</li> <li>②「課題の設定」(発言内容)</li> </ul>
		④	<ul style="list-style-type: none"> <li>□作成したウエビングとYチャートを参考に、施設見学の計画を立てる。</li> <li>□もっと調べたいという意欲をもつとともに、施設職員の話に直接聞く。</li> <li>□G T (空港職員、動物園職員、スキー場職員、図書館、道の駅職員、サイバール職員)等</li> <li>□国語「手紙を書いてつたえよう」との関連(依頼文、礼状作成)</li> <li>□G Tから学んだことを整理し、調査結果をまとめる。</li> <li>□調査結果を同グループ内で共有する。</li> <li>□調査結果を他グループと共有する。</li> <li>□ウエビングとYチャートで、3次で得た知識を整理する。(2次のものを更新する)</li> <li>□2次～3次にかけての自己の変容を振り返る。</li> <li>◆自慢について詳しく知り、分りやすくまとめることができた。まとめたことを今後どのように生かしていくとよいのだろう。</li> <li>◆自分たちでまとめたことを発信したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③「知識・技能」</li> <li>④「探究的な学習のよき」</li> <li>⑤「思考・判断・表現」</li> <li>⑥「情報の収集」</li> <li>⑦「整理・分析」</li> <li>⑧「まとめ・表現」 (思考ツール、ノート)</li> <li>⑨「主体的に学習に取り組む態度」</li> <li>⑩「自己理解・他者理解」 (発言内容、行動観察)</li> </ul>
第3次	課題設定	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「発見活動のめあて」を設定し、学習計画を立てる。</li> <li>□「発見活動のめあて」</li> <li>□自慢についてもっと調べるために、施設見学へ行き、職員の話に直接聞いてみよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「思考・判断・表現」</li> <li>②「課題の設定」(発言内容)</li> </ul>
		②	<ul style="list-style-type: none"> <li>□学びを学級内だけでなく、もっと広く発信したいという意欲をもち、第4次では、その方法について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>③「知識・技能」</li> <li>④「探究的な学習のよき」</li> <li>⑤「思考・判断・表現」</li> <li>⑥「情報の収集」</li> <li>⑦「整理・分析」</li> <li>⑧「まとめ・表現」 (思考ツール、ノート)</li> <li>⑨「主体的に学習に取り組む態度」</li> <li>⑩「自己理解・他者理解」 (発言内容、行動観察)</li> </ul>

### 3 本時の学習

#### (1) 本時の目標

整理した「各施設の自慢」を比較しながら交流することを通して、旭川市の特徴（自慢）を理解するとともに、「各施設の自慢」やそこで働く人々の思いや願いには共通点があり、それらが関連付いて、現在の旭川市が構成されていることに気付くことができる。【知識・技能】

#### (2) 本時の展開（全体：75時間扱いの43時間目、3次（熟成過程）：24時間扱いの24時間目）

学習内容と主な学習活動（・予想される児童の反応）	◇研究とのかかわり ・留意点
1 前時を振り返る（4分）。 ・前時は、施設見学で学んだことを同グループ毎にYチャート（人・もの・こと）にまとめた。  2 本時のめあてを確認する（1分）。	◇「振り返り」を振り返る場の設定 <b>研究視点3</b> ・よい視点を価値付けながら、前時の振り返りをし、本時の学習の見通しをもつ。
各施設のYチャートを比べながら、共通点や気付きを見付けよう。	
3 本時の学習の見通しを立てる（5分）。  4 異グループのYチャート（思考ツール）を持ち寄り、比較しながら、共通点や気付きを交流する（10分）。 ・自慢はそれぞれの施設で違うが、人の思いには共通するところもある。 ・施設には、自慢だけではなく、困っていることもあることが分かった。  5 共通点や気付きを全体で交流する（15分）。 ・「お客さんにたくさん来てもらいたい」という願いを施設の人はみんなもっている。 ・施設の人が努力しているからこそ自慢ポイントがあることに気付いた。 ・意外と、困っていることもあることに気付いた。	◇児童の気付きを生むグルーピング <b>研究視点2</b> ・異対象でグルーピングを行い、異なる立場から交流する。  ◇言語能力の活用 <b>研究視点2</b> ・共通点を明らかにするために、比較する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <b>【知識・技能】</b>            ②旭川市の特徴（自慢）を理解するとともに、「各施設の自慢」やそこで働く人々の思いや願いには共通点があり、それらが関連付いて、現在の旭川市が構成されていることに気付いている。（発言内容・行動観察）         </div>
施設見学に行って、「人」に関する内容が増えた。これまで各施設の自慢ポイントばかり調べていたが、思ったよりも苦勞していることが分かった。 この後の学習では、自分たちができることを考えていきたい。	
6 次時の学習を確認する（1分）。 ・「これから何をしたいか」について話し合う。  7 学習を振り返る（9分）。 ・他グループの考えを交流して、たくさんの自慢を知ることができた。 ・思ったよりも共通点が多いことに気付いた。 ・施設の人が困っていることを何とかしてあげたい。 ・自分たちが調べたことを何か生かせないだろうか。	◇新たな視点や価値に気付くための振り返り <b>研究視点3</b> ・視点③「これからの学習（自分）」については、必ず記述する。 ・数名、紹介する。

#### ◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

異対象グループの児童が持ち寄った調査結果を比較しながら交流することを通して、共通点を見いだすとともに、新たな視点や価値に気付く姿。

## 4 授業の実際

### 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現する授業デザイン（ICTの活用）

総合では、探究的な活動に「個別最適な学び」による主体性と、「協働的な学び」による協働性の視点をバランスよく位置付けることが大切だと考えました。本実践では、ロイロノートの思考ツールを活用しながら自分の学びをつなげる「個別最適な学び」と、考えるための技法を活用しながら他者との学びを通して、新たな視点や価値に気付く「協働的な学び」を往還することで、自分がすべきことを考える学びにしました。

**【Yチャートを活用した個別最適な学び】**

- ① 調べ学習で得た情報をYチャートで「人・もの・こと」に分類しながら整理した。
- ② 施設見学・インタビューの後に①で整理したものに、付け加えた。
- ③ 施設見学前後を比較しながら、情報量や内容の変化、新たに得た情報などをまとめた。

・得た情報を適宜追加  
・施設見学前後で比較  
↓  
・自己の変容を視覚的に実感

**【考えるための技法「比較する」を活用した協働的な学び】**

- ① 個でまとめたYチャートを持ち寄り、同対象グループで交流した。調べ活動や施設見学等で得た情報を「一般化する」ために「比較した」
- ② 同対象グループでまとめた①のYチャートを持ち寄り、異対象グループで交流した。調べ活動や施設見学等で得た情報から「共通点を明らかにする」ために「比較した」
- ③ 交流で得た新たな視点や価値を基に、情報などをまとめた。

比較  
↓  
一般化

協働的な学びで得た新たな視点や価値、情報などを基に、個で考えを深めて最適解を見付けたり、全体交流で、新たな探究課題を設定したりした。

次の小単元の「課題の設定」につなげる。

### 新たな視点や価値に気付くための振り返り（3視点からの自己評価と他者評価）

児童が、自分の学びを振り返ることで、新たな視点や価値に気付くことができるように、主に2つの視点（「①今日の学習」と「③これからの学習」）で振り返りを行いました。そのうえで、それぞれの振り返りを共有する機会を設けました。その際、本校児童の実態から「将来展望・社会参画」については育成すべき資質・能力だと押さえていることから、特に関係が深いと考える③の記述については重視しました。

さらに、授業の導入と終わりの場面に「振り返り」を共有する場を設けました（本時は、導入場面だけ）。

3観点に分けて、ノートに記述した。  
(③は必ず記述する)

①今日の学習（自分）  
・「プレゼンテーション」で、「こっちはなくって、あのほうが書いていかなかったりいいかも」というのに気がついた。

②これからの学習（自分）  
・「プレゼンテーション」のせつめいをあまり書けなかったのも、とたくさんつながっていることをさがして、みんながわかりやすく、中央図書館もすごいな。と思えるように、まとめがうまいしていきたい。

自己評価と他者評価の視点を組み合わせることにより、客観的な視点から自分のよさや可能性に気付いた。

プランニング（これからどうするのか）を明確にする記述は、本研究で重視した。

モニタリングとプランニングの視点で振り返ることにより、学習の成果から達成感を味わったり、次への意欲につながったりした。

【児童の振り返り】

## IV 1年次研究の成果と課題

### 1 研究の成果

- 児童にとって身近な「人・もの・こと」から学習材を設定することによって、児童が自分事として主体的に探究し、地域や社会をよくするために何をすべきか考えることにつながりました。
- 思考ツールを活用しながら自分の学びをつなげる「個別最適な学び」と、考えるための技法を活用しながら他者との学びを通して、新たな視点や価値に気付く「協働的な学び」を往還することで、自分がすべきことを考える学びが実現できました。
- ICTの活用として、ロイロノートを継続的に使用しました。主に、思考ツールと共有ノートを用いて、自分や他者との学びをつなげると共に、アンケート機能や回答共有機能を用いて、自分の学びを振り返ったり、仲間と共有したりすることができました。
- 振り返りの視点を主に2点（モニタリングの視点、プランニングの視点）に絞りました。モニタリングの視点により、児童が自分の学びを振り返り、他者と交流することにより、新たな視点や価値に気付くことにつながりました。また、プランニングの視点により、児童が自分の学びの見通しをもつことにつながりました。

### 2 今後の課題

- 学習材の1例を示すことができました。今後は、現在ある学習材の修正をしたり、新たな学習材の開発をしたりすることにより、日々変化する児童や地域の実態に応じた学習を展開する必要があります。
- 学習材とともに、施設職員やゲストティーチャー等、学習に関わる人の影響が大きいと感じました。学習の目的（なぜその課題を追究してきたのか）、内容（これを追究して何を明らかにしようとしているのか）、方法（どのような方法で追究してすべきなのか）等、「学びの意味や価値の明確化」の共有を、関わる人々とも更に綿密にする必要があります。
- 「振り返り」と「振り返りの共有」にかかる時間の割合が多かったため、振り返りの方法を検討したり、振り返りの場面を限定したりする必要があります。

## V 引用・参考文献

- 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編  
文部科学省 東洋館出版社 平成30年2月
- 小学校教育課程実践講座 総合的な学習の時間 田村学 ぎょうせい 平成29年12月
- 初等教育資料No. 1019「単元の評価基準を作成するポイント」文部科学省 東洋館出版社  
令和4年4月
- 総合的な時間の指導法 村川雅弘ほか 日本文教出版 平成30年10月